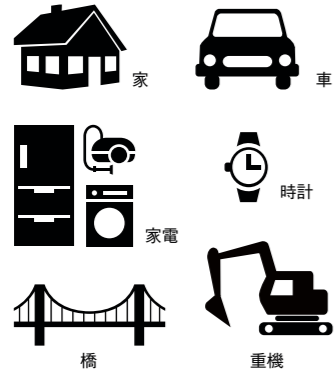


Point of note

IoTとは

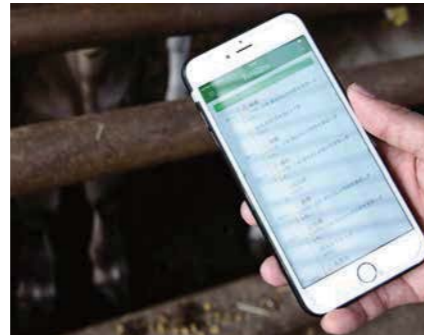
Internet of Thingsとは、モノのインターネットとも呼ばれ、さまざまなモノがインターネットを通して接続され、コントロールや管理を可能にすること。例えば牛にウェアラブルデバイスを取り付けると、牛の行動や健康状況、牛舎の環境などがデータ化され、牧場を端末画面で管理できる。また、獣医や各担当者も同じデータを共有できる。



牛の耳には管理用のタグが取り付けられている。



「コスモスファーム」代表の話を聞く小林さん。



スマートフォンで牛の各種情報を確認。



牛のために環境を整え、手間暇かけて飼養。



株式会社 ファームノート

<http://farmnote.jp/>

「牧場を、手のひらに。」をビジョンに
2014年からサービスを開始した『Farm note』
酪農・畜産家向けに開発した
スマートフォンで使える手軽さと手頃な
価格設定のクラウド型牛群管理システムだ。
同社が見据えるスマート農業の
未来がそこにある。

会社概要

所在地：北海道帯広市西16条南1-2-1
業種：ソフトウェア開発業
資本金：1億1640万円
設立：2013年11月
従業員数：11名



「スマート農業分野で世界のトップになることが、 私たちのミッションです」

STEP1 創業のきっかけ
顧客管理システムを使い
牧場の牛の管理はできないか

「わかりました。では、やってみます」。
ユーザーでもある牧場主の要望に、株
式会社ファームノート代表取締役の小
林晋也さんは小さく頷く。小林さんは
昨夜、アメリカの牧場視察から帰国し
たばかりだ。時間があればユーザーを
訪ね、ファームノートへの要望や改良
のヒントなどを聞く。
「海外の牧場がどんな経営をしている
のか。毎年、視察に行くのですが、私
たちにも参入のチャンスはあると思っ
ました」

「Farm note」とは、酪農・
畜産業界向けに特化した牛群管理シス
テムのアプリケーションだ。スマート
フォンやタブレットで簡単に牛の情報
を管理活用できる。2014年11月に
サービスを開始し、15年9月時点で約
7万4000頭がファームノートで管
理されている。

「ビジネス用の顧客管理システムを応
用して畜産のIT化ができないかと
いう問い合わせがあり、さっそく牧場
に行ってみると現場は紙だらけだっ
た。これは勝算があると思いました。
一方で、酪農はIT化が進んでいる
ので、そちらを先に見たら参入しよ
うとは考えなかったかもしれない」

に近い企業はないと思います。当社
では営業職はカスタマーサクセスと
呼び、顧客の成功＝利益を出すこと
に、リソースも集中させている。顧客
のニーズを把握するスピードが最速な
ら、市場のトップを走ることができ
るはず」

ファームノートは、特にシステムの
改良に積極的で、ロイヤルティの高い
ユーザーを、ファームノートアンバサ
ダーと名付け、密接に情報交換を行い、
独自の協働体制を築いている。コスモ
スファームの担当者もアンバサダーの
ひとりだ。

小林さんは11年前にウェブ関連のベ
ンチャー企業を創業、同社は着実に発
展を遂げている。日本政策金融公庫と
の出会いが、この創業のときだった。
「ファームノートは資金調達では第三
者割当増資までのつなぎ資金が必要
で、そのために日本公庫の融資を受け
ました。公庫は事業計画ベースで将来
まで見据えて評価してくれる。信頼感
は大きいですね」

STEP3 今後の展望
世界の牧場にファームノートを。
さらに進化したシステムへ

「食糧増産は地球規模の課題。農地効
率向上にIT化は必至です。私たちは

酪農家向けのシステムは海外で開発
されたもので、PCで管理されていた。
「実際には使いこなしている人は少な
かったと思う。『Farm note』
はスマホで使えますからね。その手軽
さで畜産・酪農を問わず、北海道の牧
場に一気に広まりました」
帯広市がある十勝地方は、日本の牛
乳の約15%を搾乳している一大産地。
「でも、世界には14億頭以上の牛が飼
養されていますからね。ビジネスとし
てのスケールは十分です」

STEP2 事業スタート
ユーザーの声を積極的に聞き
改善と洗練のスピードを最速化

北海道帯広市に近い、清水町の「十
勝清水コスモスファーム」で、ゴム長
靴に履き替えて牛舎を見学する小林さ
ん。コスモスファームも『Farm
note』のユーザーで、昨年、農場
HACCPを取得し、牛が健やかに育
つ市域環境が整えられた先進的な牧場
だ。同牧場のコンビーフは「キタのハ
イグレード食品+2015」にも選
ばれ、6次産業化も進んでいる。

「どんなに良いシステムでも、目の前
のユーザーが使いこなせるものでなけ
れば市場はとれない。私たちはユー
ザーに密着し、一緒に開発する姿勢で
シェアを獲得した。ここまでユーザー
スマート農業分野で世界のトップにな
ることがミッション。地域貢献や地方
創生が目標ではなく、結果的に地域貢
献になればいい。私たちは、顧客や地
域を限定することなく、早くグローバ
ルに展開したいと考えている」

まず、北海道同様に酪農・畜産が盛
んな九州への進出を予定しており、そ
の先には海外展開を視野に入れている。
クラウドサービスの利点は、現地に
拠点が不要なことだ。さらに同社で
は、牛用のセンサデバイスを開発中
で、「インターネット・オブ・シング
ス（IoT）」ならぬ牛がネットにつ
ながる「インターネット・オブ・アニ
マル」の将来も見据えている。
「つなぐものは牛に限らず、農産物や
農機具にも使える汎用性がある。農家
が自分の農場の状況を、タブレットで
リアルタイムに、簡単に把握できる。
今はその新システムのリリースに向け
て準備中です」

Profile



株式会社
ファームノート
代表取締役
小林晋也さん

1979年生まれ。CMSインテグレーション企業の株式会社スカイアークを2004年に出身地の帯広市に設立。13年11月に株式会社ファームノートを同地に設立。